

## 授業計画（シラバス）

<b>■科 目</b>	<b>口腔衛生学</b>	<b>■講師名</b>	田中 入
Ⅱ部1学年	前期、中期	30コマ（1コマ90分授業）	総時間60時間 講義4単位
<b>■学修概要</b>			
<p>近年、WHO（世界保健機関）および厚生労働省は健康に関する具体的な数値目標を掲げている。それはつまり疾病の有無や程度ではなく、予防管理に重点を置いている事にほかならない。近代医学においては予防医学がその主流となっており、口腔疾患を防ぐ思考の確立は臨床における必須要件である。</p>			
<b>■授業目的、到達目標</b>			
<p>衛生学・公衆衛生学を基とする口腔衛生学の内容と目的を理解する。すなわち歯科領域における口腔の健康像と疾病像の動態を正しく理解し、病因探索、要因除去および健康管理を行う技量を習得する。また年代ステージ別における地域歯科保健を正確に把握して能動的に行動を起こすことが出来る知識と実践力を身に付け、多職種連携に参画出来得る能力を習得する。さらには直近の課題となる感染症対策の実践方法も体得する。</p>			
<b>■授業方法</b>			
<p>講義、板書に加えてスライド、動画などを併用して行う。また必要に応じて質疑応答を行い、正答した者には加点を行う。（ただし不正解でも減点は実施しない）</p>			
<b>■教科書（書籍名・出版社）</b>			
最新歯科衛生士教本／歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版 医歯薬出版			
<b>■成績評価・講義上の注意</b>			
<p>中間および期末テスト（論述筆記形式）および出席日数、受講態度（私語、居眠りなど）、質疑応答などから総合的に評価する。なお筆記試験の採点には相対指数を採用する。</p>			
<b>■実務経験</b>			
<p>歯科医師の資格を取得してすぐに予防歯科学への道を進み、その概念に則った歯科臨床を30年以上継続している。歯学博士、日本口腔衛生学会専門医、埼玉県障害者歯科相談医も取得している。</p>			
<b>■授業計画（講義の流れ）</b>			
1	口腔衛生学の概要、歯科疾病予防の概念		
2	う蝕の疫学的特性（1）		
3	同 上 （2）		
4	う蝕の発生に関わる要因（1）		
5	同 上 （2）		
6	う蝕活動性		
7	う蝕予防法とその種類		
8	フッ化物の性状・代謝、う蝕予防機序		
9	フッ化物の慢性毒性および急性毒性（1）		
10	同 上 （2）		
11	フッ化物応用法（全身応用法）		
12	フッ化物応用法（局所応用法）（1）		
13	同 上 （2）		
14	同 上 （3）		
15	中間試験		

## 授業計画（シラバス）

■授業計画（講義の流れ）	
16	歯周疾患の疫学的特性
17	その他の歯科疾患の疫学的特性について
18	ライフステージごとの口腔保健管理
19	地域歯科保健活動の概要
20	歯科保健における行政の役割および 8020 運動、噛みんぐ 30 など
21	健康増進対策の歴史と健康日本 21（第 2 次）
22	集団健診と事後措置
23	母子歯科保健対策 出産前から乳幼児期まで
24	学校歯科保健対策 学童期における歯科保健
25	産業歯科保健対策 生産年齢における糖尿病連携、栄養関連など
26	成人歯科保健対策 生活習慣病対策、行動変容など
27	高齢者歯科保健対策 前期・後期高齢者の特異的な歯科保健
28	2025 年問題と地域包括ケアシステム
29	障害者歯科保健対策、精神衛生
30	定期試験、解答解説